

「産業創造戦略懇話会」の中間報告について

1 趣旨

成長から成熟するまちへの転換期を迎える本市が、活力と賑わいのあるまちであり続けるためには、多様な魅力を高め、活かしながら新たなブランド創造を図るとともに、「住宅都市」から「生活・産業都市」への転換を戦略的に推進し地域産業の振興と活性化を図ることが重要である。

そこで、市長及び学識者や地元企業等で構成する「三田市産業創造戦略懇話会」を設置し、本市の産業創造施策について、多角的な視点と専門的見地に基づく意見・提言をいただく。

2 懇話会委員

区分	氏名	所属等
座長	北畑 隆生	市政策顧問（元 経済産業事務次官）
	森 哲男	三田市長
	星 エリ	市地域創生アドバイザー （ニューメキシコ大学 技術移転&経済開発事務所 大学ベンチャー兼国際事業マネージャー）
	近藤 賢二	三菱電機株式会社 顧問
	中島 正博	株式会社モリタホールディングス 代表取締役会長兼CEO
	水木 純一郎	関西学院大学 理工学部長 教授
	小池 洋次	関西学院大学 総合政策学部 教授
	村上 元伸	阪神北県民局長

3 これまでの取り組み

- ・「三田市産業創造戦略懇話会」を設置し、懇話会を3回開催。
- ・「住宅都市」から「生活・産業都市」への転換を目指して、本市の魅力と強みを活かした（仮）「ひと・もの・まち」づくりイノベーションを推進するための産業創造戦略について、各委員からいただいた意見・提案内容等を整理し、中間まとめを行う。

（懇話会の開催）

- 第1回 平成29年5月29日（月）13時～15時
- 第2回 平成29年7月 3日（月）13時～15時
- 第3回 平成29年9月 4日（月）13時～15時

（市長意見交換会の開催）

- 三田市商工会 平成29年9月14日（木）19時～20時30分
- 三田青年会議所 平成29年9月15日（金）19時～20時30分

4 中間報告

別紙のとおり

5 スケジュール（予定）




- ・提言の中間まとめ等 9月～
- ・第4回懇話会 10月6日（金）13時～15時
（市役所3F庁議室）
- ・産業創造戦略懇話会の提言 11月

「三田市産業創造戦略懇話会」の中間報告
 (仮)「ひと・もの・まち」づくりイノベーション

別紙

番号	分類	提言案	各委員からの意見	イメージ
1	人材の育成・活用	若者、女性の意欲を引き出し、起業・創業の精神を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 三田市も「三田市版アクセラレーションプログラム」を創ることが必要である。若者の「アクセラレーションプログラム」と関学の「シーズオリエンティッド」なスタートアップを合わせた三田版の創業支援が出来たらよい。 創業に興味がある学生さんや海外に興味がある学生さんも沢山いるので、例えば、関西学院大学の神戸三田キャンパスのゼミを使って、どの様にすれば創業出来るのかなどのゼミをやってみるのも一つの方法である。 グローバルシェイパーズの出前授業が、実際の創業に結び付く。 	 <p>創業支援セミナー</p>  <p>さんだ生涯学習カレッジ</p>  <p>学生のまちづくりワークショップ</p>
		意欲のある若者、女性の起業・創業を後押しする	<ul style="list-style-type: none"> 三田市はプレミアム世代の宝庫、人材の宝庫である。全国に先駆けて、プレミアム世代を活用していくモデルを、三田市は創ることができる。 高齢者の人たちを使って新しい産業を興すのは面白い。 シニア人材の活用は、出口をどう探すかである。長い人生でもう一度何か創業などチャレンジできる仕組みをしっかりとつくりたい。 勤めている方がリタイアされた後、この地で会社を興すとか、そういうところの応援は、まだ可能性としてはあるのではないかと。 関学と連携して、シニア世代で、「ベンチャー支援をやりたい。」という方などを対象にした、「関学の夜間コースを開講し、修了証書を渡してはどうか。修了証書をもって三田市で登録し、データベース化することにより、三田市で創業したり、企業から採用されたりするような仕組み」ができれば、シニア世代の生きがいづくりにもつながるのではないかと。 	
		三田の強みである多くの高齢者が活躍できる仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活性化は、よく「若者」「よそ者」「ばか者」と言われる。学生に限っていうと、三田に生まれ育った学生からよりも、市外から来られた学生によって刺激されることもあるので、それを上手く色々な形で生かしながら、産業につなげていきたい。学生さんが新しいビジネスアイデアを出していただければと期待している。 技術移転や、シーズベースでビジネスプランを立て創業したい若者もいる。技術移転が先進的な海外の大学では、「海外インターンシップ制度」があり、技術移転コース修了時に証明書を渡している。「三田市で創業することを条件として、三田市がインターンシップをサポートする。」というミニプログラムのようなものが出来ないか。 三田市がビジネスアイデアの創業コンテストを企画し、優勝者には何かの援助をしてはどうか。 	
		学生がビジネスアイデアを出す仕組みをつくる		
		ベンチャー企業を育てるプログラムや仕組みをつくる		
ベンチャー企業への資金援助の仕組みをつくる				
2	カルチャータウン・センター地区、新三田駅周辺の活用	カルチャータウン・センター地区に研究、創業支援、交流等の場(施設)をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 関学の近くに大きな土地(カルチャータウン・センター地区)が残っている。 新三田駅前に学生が交流し講演会を行うような施設や商業系施設を誘致すべきである。 新三田の開発の中で、大学とか産業とか若者のたまり場をつくってもらいたい。 JR東京駅は、大きなオフィスビルが建っており、出張に便利である。大阪に大きな本社があって手狭になったとか、一戸建て住宅に住みたい若い研究者とか、そういう人たちのために、オフィスビルを新三田に建ててもらおうと、そういう機能(本社・オフィス機能等)が集まってくると思う。 まちづくりをするためには小売業に力を入れたいいけない。 商業・サービス業がないと人は集まらない。 	 <p>カルチャータウン・センター地区イメージ</p>  <p>福島土地区画整理事業(新三田駅周辺)</p>
		新三田駅周辺への商業施設やオフィス機能等の集積と、多様な人材が集まる場をつくる		

番号	分類	提言案	各委員からの意見	イメージ
3	地域イノベーションの推進	<p>三田市役所が率先して、AI、IoTやオープンデータを使ったモデル事業や取り組みを行う</p> <p>地域の食品加工産業と農業の連携など、6次産業化の取り組みを行う</p> <p>生活の中に付加価値を生み出していくような産業(生活産業)をつくり出すための“産学官プラス民の連携スキーム”を考える</p> <p>新産業創造や低炭素社会モデルの実現を目指す関学のブランディング事業(オープングリーンイノベーション)を支える産業創出のための仕組みづくり</p> <p>三田市から新しいビジネスモデルの発信</p> <p>地域未来投資促進法の活用</p>	<p>・社会が変わる。それを少し先取りするというのは大変重要なポイントである。</p> <p>・第4次産業革命と言われ、IoT、ビッグデータ、AIの時代であると言われており、この動きは本当に来る。今までのビジネスモデルの仕事をしていくことは出来なくなる。「今までやってきたからこうだ。」というのは、変えないといけない時代である。</p> <p>・近隣自治体との広域連携による産業振興を考えていく必要がある。</p> <p>・三田らしさという中では、農業分野の競争力をどう高めていくか。農業と学生を結び付けて食品産業など、地域の農業の6次産業化などを具体的に検討できればよい。</p> <p>・三田市には、伝統的な農業学校があり、農業関係者も沢山いるので、農業者を人材育成する土壌がある。これを産業政策に繋げるべきだが、高校では限界があるので高等教育との連携が必要である。</p> <p>・現在ある農業を中心とした産業、これの魅力をもう一度確認し、それをどうやって対外的にアピールするかである。</p> <p>・いわゆる“生活産業”といいますか、身近なコミュニティーの中での生活自体が付加価値を生み出していくような、そういう生活を提案するような産業を、今のプレミアム世代の人たちがつくり出していくような産学官プラス民の連携スキームみたいなものを考えていくのが三田らしい。</p> <p>・産業界と大学、行政(産学官による連携)のほかに、もう一つ、生活者というも、消費者としてではない、産業の担い手としての生活者というのがプラスであってもよいと考える。</p> <p>・プレミアム世代・高齢者にどうサービスするかによって、ビジネスは色々なことができるようになってくる。</p> <p>・能力のあるシニアがたくさんいらっしゃると同時に、マーケットとしてのシニア世代もたくさんある。地域の中で産業連携みたいなものを上手く創っていくことが出来れば、まさに「生活・産業都市」のモデルとして考えられるのではないか。</p> <p>・少子高齢化がマイナス要因ばかりではない。この少子高齢化になって、新しい第4次産業革命が起こる社会構造の中で、どうやったら生きていけるのかを考えて、これをうまく提唱できれば、日本全体をも三田が引っ張るビジネスモデルとなる。</p> <p>・大学と大企業の新しい技術と地元をどう結び付けるのかを、戦略的に考えていくことが大切である。大学を活用できるような仕組みが必要と考える。</p> <p>・関学が「オープングリーンイノベーション」という「ブランディング事業」を国に申請しようとしている。イノベーションソムリエみたいな人が国あるいは三田におられて、これはものになるというのをピックアップし、資金も含めてお金を出していくこと。その後も含めて、例えばそこで出たプロダクションをある程度買い上げるとか、あるいはベンチャーキャピタルみたいなものをそこに紹介していくということ、また、色々な所で情報発信していただくとともに、コンソーシアムを形成することによって、色々な技術移転やビジネスを創造することや、無名の科学者を起業家に転じさせる仕組みづくりを三田市に期待する。</p> <p>・研究資金とは別で、SBIR(中小企業技術革新制度)のような新しいスタートアップのギャップファンド的なものがあれば、小さな企業もサバイブ出来、IPO、パイアウトまでつながるというような物語が描けると思う。</p> <p>・三田市の新しいビジネスモデルとして農業ベンチャーが考えられる。農業の株式会社経営や水耕栽培(植物工場)のように農業と工業を一緒にして会社経営したら、安心で安全なものが安定的に作れ、経営も安定する。</p> <p>・農業とかIT技術は経営の中の一つのツールに過ぎないが、水耕栽培(植物工場)を関学のひとつの「グリーンイノベーション」として考えて、学生と研究すれば面白いのではないか。</p> <p>・三田市の一つの魅力に関学があるので、大きなところではなくても、小さなところで地元発のベンチャーを育てるのを市の政策でやる。国の制度を活用する。(地域未来投資促進法)</p> <p>・地域未来投資促進法の支援措置であるファンドを活用することで、ベンチャーの創業期に少リスクマネーが軽減される。</p> <p>・地域未来投資促進法の活用の切り口として、例えば、市内には防災関連企業が多数進出しているので、上手く繋ぎ合わせたネットワークが出来ないか。</p>	 <p>農業 (田園風景)</p>  <p>関西学院大学 神戸三田キャンパス</p>  <p>リサーチ・コンソーシアム 関西学院大学</p>  <p>北摂三田テクノパーク</p>

番号	分類	提言案	各委員からの意見	イメージ
4	「住みたい、住み続けたい」魅力あるまちづくり	<p>空き家、空き店舗を活用してシニア世代や学生が集まる拠点や住居をつくる</p> <p>商店街(三田駅周辺等)の空き店舗を女性が起業できる場として活用する</p> <p>リバースモーゲージのような制度を活用した住居の有効活用</p> <p>子育て世代を支援する保育所への送迎ターミナル(送迎保育ステーション)の設置</p> <p>「住みたい、住み続けたい」を基本とする魅力あるまちづくりの推進</p> <p>三田らしい観光資源を発掘することによりまちの魅力を高める</p>	<p>・学生がせっかく三田に来てくれるのに、そのまま戻って三田に貢献していない。関学の学生がまちでうろろろしてる場を創らないと、三田の活性化につながらない。</p> <p>・もっと「ウエルカム感、地元挙げて学生を歓迎しますよ」というまちのイメージをもっと積極的に戦略的につくっていくことによって、学生もさらに三田のまちに興味を持ってもらう。それがいずれ地元の人との交流の中で新しいビジネスとかいろいろ可能性というもの出てくるかもしれない。戦略的にウエルカム感をもっときちんと形として出来たらよいのではないか。</p> <p>・空き店舗を改装していただき、寮・宿舎として、レンタル出来ないか検討してほしい。</p> <p>・もっと商店街の空き店舗を、学生のたまり場や、シニアの方が第2のコミュニティビジネス的なものをはじめられる場や、女性の方で面白いものができる場として活用出来ればよい。</p> <p>・起業したい学生向けに、ここを借り上げるとか、そういうような取り組みも必要ではないか。</p> <p>・空き家対策の中の一つとして、ニュータウンの一軒家を上手いこと工夫して、何か学生さんと一緒に出来る仕掛けが出来ればよい。</p> <p>・高齢者のリバースモーゲージのような制度が活用出来ないか。空き家になるよりは、そこをベースにして新しい学生寮にしていくとか、建て直していくとか、何か空き家の有効活用が出来ないか。</p> <p>・三田には、流山市のような要素があると思います。やり方によっては。都心から近く電車一本で行けますから。そして、今、プレミアム世代ということで、なかなかその人たちが本当にここで2人だけで、あるいは1人になって住み続けられるかということになると、やはりそこに若い人をいかにして呼んでくるかというのが大事かなあと 생각합니다。</p> <p>・近郊の中ではやっぱり“三田は違うよな”って言ってもらうことをどこまで人より早くやり、人よりたくさんPRできるかである。</p> <p>・生活をするだけではなくて、人が魅力を感じ、そこに居を構えてまちの発展に携われるようなことが出来ればよい。</p> <p>・やっぱり生活という意味で、「住みたい、住み続けたい」、これがやっぱり基本だと思う。</p> <p>・「芸術・文化」の聖地を創ってはどうか。「風のミュージアム」は素晴らしいところである。新宮さんの「風の芸術」は全国レベルで注目されるのではないか。風という切り口の芸術はそうそうない。上手いけば、全国から人が集まるのではないか。芸術と文化は生きがいにともつながるし、そのシーズは三田市にあると思う。</p> <p>・今、流行っているのは、有名なところを見に行く観光ではない。三田ならではの観光資源を掘り起し、「まちなか観光」みたいなものを、三田を拠点として近隣市も巻き込みながら取り組めたら面白いのではないか。</p>	 <p>三田駅前ペDESTRIANデッキ</p>  <p>商店街イメージ</p>  <p>風のミュージアム</p>

三田市産業創造戦略懇話会 用語集

用語	解説
IoT	モノのインターネット。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され(単に繋がるだけではなく、モノがインターネットのように繋がる)、情報交換することにより相互に制御する仕組み。
アクセラレーター	既にある企業の事業を爆発的に成長・加速させるために必要な資金投資やサポートをする働きのことを意味する。インキュベーターと行っていることは大差ないが、アクセラレーターはビジネスの拡大を焦点に当てているので、成長し始めたばかりの企業に対して行う支援である。
アクセラレータープログラム (アクセラレーションプログラム)	大手企業が新興企業(ベンチャー・スタートアップ)に対して協業・出資を目的とした募集行為を開催するもの。 主な開催の流れ(パターン) ・募集行為に対する説明会を開催 ・スタートアップ向けの募集を開始 ・協業予定のスタートアップ企業を選定 ・小さい規模でのスモールテストを開始 ・成果発表 ・協業開始
インキュベーター	独自の創造性に富んだ技術、経営ノウハウ等を持つベンチャー企業の旺盛な起業家意欲に着目し、経営アドバイス、資金調達へのアクセス提供、企業運営に必要なビジネス・技術サービスへの橋渡しを行う団体、組織を指す。
インボルブ	巻き込むこと。かかわらせること。
Uber(ウーバー)	アメリカ合衆国の企業であるウーバー・テクノロジーズが運営する、自動車配車ウェブサイトおよび配車アプリである。現在は世界70カ国・地域の450都市以上で展開している。
Airbnb(エアビーアンドビー)	宿泊施設・民宿を貸し出す人向けのウェブサイトである。世界192カ国の33,000の都市で80万以上の宿を提供している。2008年8月に設立された、サンフランシスコに本社を置く、非公開会社Airbnb, Inc.により所有、運営されている。
SBIIR	中小企業技術革新制度。政府が中小企業による研究技術開発とその成果の事業化を一貫して支援する制度。
技術移転	技術をもっているところから、その技術を必要としているところへ技術を移転すること。 大学などの公的な研究機関から民間企業へ、あるいは国内企業から海外企業などのパターンがある。移転する技術は先端的な特許技術(知的所有権)から眠っている技術の場合がある。 国内の大学から民間企業への技術移転は、大学等技術移転促進法(TLO法)が1998年に制定・施行されてから活発になり、大学での研究成果である特許が産学連携として活用されるようになった。
技術シーズ	研究開発や新規事業創出を推進していく上で必要となる発明(技術)や能力、人材、設備などのこと。

三田市産業創造戦略懇話会 用語集

用語	解説
ギャップファンド	大学内での基礎研究とそれをベースにした事業開発プロセスを繋ぐために、ベンチャー創業前の段階で、試作品の作成、機能検証や事業化検証、市場調査などを行うための資金を1件当たり数百万円程度提供するファンドのこと。
グリーンイノベーション	低炭素社会の実現を目指す技術的試み。および、低酸素産業を中心とした社会の在り方を変革し、発展・成長を遂げる戦略。
グローバルシェイパーズ	世界経済フォーラムによって任命される33歳以下の若者によるコミュニティ。多様なバックグラウンドを持ち、社会に貢献する強い意志を持つ人々によって構成され、コミュニティのメンバーはシェイパーと呼ばれる。地域における社会課題を解決するプロジェクトなどを行うことを目的とする。
コミュニティビジネス	市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業。
コンサルティングファーム (Consulting firm)	企業の抱える課題に対して意見を求められ、解決まで導く企業のこと。ファームとは会社、商社、企業などのこと。
サイバーダイン	サイバニクス技術が駆使されたロボットスーツHAL®を、医療・介護・福祉、重作業、エンターテイメント等で展開するために設立された大学発ベンチャー。
サバイブ	他よりも長生きする。生き残る。
サプライチェーン	個々の企業の役割分担にかかわらず、原料の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスの繋がり。その視点から、ITを活用して効果的な事業構築・運営する経営手法。
シーズオリエンテッド	シーズ志向。世の中に新しい価値を提供して、市場を自ら作っていくやり方。
スプリングエイト	兵庫県の播磨科学公園都市にある世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設。
ソーシャルイノベーション	社会問題に対する革新的な解決法。既存の解決法より効果的・効率的かつ持続可能であり、創出される価値が社会全体にもたらされるものこと。
ソーシャルビジネス	自然環境、貧困、高齢化社会、子育て支援などといったさまざまな社会的課題を市場としてとらえ、持続可能な経済活動を通して問題解決に取り組む事業のこと。
大学発ベンチャー	大学の教官、学生、または公的試験研究所の研究成果を技術シーズとして事業化・創業を行う事業主体のこと。大学、公的試験研究機関等の研究者、学生等が兼業等により事業活動を行い創業する、または、大学等の研究成果を技術移転して創業する場合などがある。

三田市産業創造戦略懇話会 用語集

用語	解説
ダボス会議	スイス・ジュネーブに本拠を置く非営利財団、世界経済フォーラム(WEF)が毎年1月に保養地ダボスで開く年次総会。世界経済や環境問題など幅広いテーマで意見交換する。
TLO	大学の研究者の研究成果を特許化し、それを企業へ技術移転する法人であり、産と学の「仲介役」の役割を果たす組織。
NIRA(ニラ)	中立的な立場から総合的に政策研究を推進する機関として総合研究開発機構法(1973制定)に基づき74年3月設立された。政府、地方公共団体および民間からの出資と寄付による基金をベースに、人間の未来、国際関係、人間環境、経済発展、地域政策などの広範な社会の諸課題について自主研究・委託研究を行うと同時に、民間シンクタンクに対する研究助成を行っている。
バイアウト	価格操作や経営権の獲得を目的とした企業買収のこと。株式取得などで親会社などから独立することを呼ぶこともある。
プレミアム世代	60歳～75歳の世代。(徳野貞雄『暮らしの視点からの人口減少社会』)
ベル研究所	ベル研究所はもともとBell System社の研究開発部門として設立された研究所であり、現在はノキアの子会社。
ベンチャーキャピタル	ハイリターンを狙ったアグレッシブな投資を行う投資会社(投資ファンド)のこと。主に高い成長率を有する未上場企業に対して投資を行い、資金を投下すると同時に経営コンサルティングを行い、投資先企業の価値向上を図る。
リサーチコンソーシアム	産官学研究協力機構。企業、研究所をはじめ、官公庁、その他の機関等と研究協力を促進し、人的交流を図るための組織。データの収集・分析による問題の所在の確認や、適用可能な政策理論の応用や政策手段の検討、政策過程の分析、政策効果の測定などを経て、さらに代替可能な政策案の提示等を共同で行う。
リバースモーゲージ	持ち家(自宅)を担保として銀行や自治体から融資を受けて、借りたお金は死亡時に自宅を売却することで一括返済する仕組み。